

視点(2111)

iPSとマーケットデザイン&SCのケーススタディ!!

(SC理論編)

世界に誇る医学者である山中伸弥 京都大学教授が発見した「iPS細胞」の応用が着実に進んでいます。iPS細胞の応用においては、「iPS再生医療」と「iPS創薬」が2本柱となっています。

iPS細胞とは、皮膚などの体細胞に因子を導入し、時計の針を巻き戻すようにそれぞれの細胞になる前の状態に戻すことで人の臓器や組織の細胞を自由に作ることができる細胞のことです。人間の不健全な臓器や組織を正しい(健全な)状態の臓器や組織に再生する「時計の針を巻き戻す手法」は、あらゆる分野における理想的な再生方法です。

SCは1970~2010年の40年間の成長期を経て2011年に飽和期(1つの固有マーケットの中にRSCの選択肢が2つ存在する状態)になり、やがて新陳代謝をくり返しながらかSCの多様化が進んで、次世代型SC(2020ソリューションに対応したSC)への道である成熟期に突入します。SCの成長期から飽和期におけるSCの成立・成功理論と、ツートゥエンティソリューション時代に対応したSC成熟期におけるSCの成立・成功理論は根本的に異なります。

それゆえに、**現状のSCの未来志向からの再評価が必要**となります。現在の各SCの課題は、次の3つの原因により生じています。

- ①開発当時は現状の課題を課題としてノウハウとして理解していなかった。
 - ②開発当時に現状の課題をわかっていたが、何らかの理由で解決あるいは実行できなかった。
 - ③開発当時は現状の課題は課題ではなかったが、時代変化に伴い課題化した。
- この現状の課題を解決する手法をiPS細胞による治療と比喻して説明します。

iPS細胞ならば		SCで言うならば	
iPSによる再生医療	細胞を初期化して、新たに臓器や組織をつくり出す	スクラップ&ビルド方式によるSCの再構築 リニューアル	全面建て替えあるいはイノベーション リニューアル
iPSによる創薬	iPS細胞を使って、よりスピーディかつより効果の高い治療薬をつくる	SCのパワーアップ方式によるSCの強化リニューアル	現状の課題を解決することによるベースアップリニューアル

SCを再構築するリニューアルは、iPS細胞において細胞を初期化して健全な状態に戻すように、現在は課題のあるSCを健全な状態(本来の1つの固有マーケットの中であるべき姿)に戻すことです。これを「**マーケットデザイン(マーケットデザイニング)**」と言い、1つの固有マーケットにおいて適正立地に適正規模のSCが適正業態で成立し、互いに棲み分けしてブルーオーシャンのマーケットを形成することです。このマーケットデザインは、1つの固有マーケットの中で互いに激しい競争状況となり、SCの開発と進化及び淘汰が時間をかけて起こり、結果的に適正立地・適正規模・適正業態の状態が形成される現象です。時間経過により起こった適正化の道の時計の針を巻き戻すことで、成立・成功のメカニズムを解明するノウハウを現状レベルで適用できるようになります。

SCは飽和期となり、多くのSCの成功・失敗のノウハウが歴史上のプロセスの中で宝の山となっています。iPS細胞のようにSCを初期化して、何らかの理由で解決できなかった課題に対して、時計の針を巻き戻すことにより得たノウハウを適用することがスクラップ&ビルド方式によるSCの再構築リニューアルです。一方、全面建て替えあるいはイノベーションリニューアルができない、またはそこまでする必要のないリニューアルでは、iPS細胞による創薬(よりスピーディかつより効果のある治療薬)と同じように、現状の課題を解決するベースアップ&パワーアップリニューアルが適用されます。このiPSによる創薬は、SCノウハウの「**ケーススタディ(事例研究)**」に相当します。SCの長い歴史における成功・失敗の事例を深く研究(分析ではなく解析)することにより、SCのベースアップ&パワーアップのリニューアルがスピーディかつ効果のあるものになります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 軍 秀 之